

昆虫71・動物56 **トカラの歩き方(2)**

6月5日まで開催中の企画展「トカラの歩き方」では、トカラ列島の自然や文化に焦点を当て、昆虫や動物の標本、はく製を展示してトカラ列島の魅力を紹介しています。

中之島での昆虫調査

2019年10月、十島村に採集の許可をいただき水生昆虫とチョウ類調査に行きました。



底なし池

トカラ列島最高峰・御岳の麓にある「底なし池」と周辺の湿地、集落近くのイネやタイモの水田、地下水が流れ込む小さな水たまりなどで、オキナワイトアメンボ、シナコガシラミズムシ、トビイロゲンゴロウ、水生カメムシ類やゲンゴロウ類、ヤゴなどを確認することができました。



ギンヤンマ属の1種(ヤゴ) アオタテハモドキ

また、トカラ列島では定着種に比べ、風に運ばれて飛来する迷チョウの比率が高いことも特徴です。今回は、ルリウラナミシジミの他、アオタテハモドキ、リュウキュウムラサキなどの迷チョウの採取や目撃ができました。

鹿児島県立博物館ではこのような昆虫調査を継続し、研究報告にまとめてきましたが、この2年間は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、中止を余儀なくされています。生物地理学的に重要な地域を、十島村の財産として後世に引き継ぐためには、環境の維持や保護とともに、地

昆虫担当 中峯敦子・動物担当 上舞哲也

域の自然がどのような状態になっているか、年次的に調査することが両輪となって進められることが必要です。今は調査再開の日が来ることを願うばかりです。

北限のハブ ～トカラハブ～

トカラハブは、トカラ列島の宝島と小宝島にのみ生息するヘビです。ハブの仲間のなかでは最も北に分布することから「北限のハブ」と呼ばれます。

全長は70～120cmと奄美、沖縄に分布するハブより小型です。三角形の大きな頭部を持ち、奄美、沖縄のハブより弱毒ですが、咬んだときに出血性の毒を注入します。体色は多様なパターンが存在することが知られており、褐色で背中に斑紋が散在する個体や、全身が赤褐色、黒褐色ものまで存在します。島内の様々な場所に生息しており、主にトカゲや小鳥、ネズミを捕らえて生活しています。



樹上のトカラハブ

最近の研究で、遺伝的に奄美大島のハブの集団に極めて近いことが明らかになりました。このことは、同じ祖先を持つハブとトカラハブが急速に大きさや形態を変化させ、両種が生じたことを意味しています。また、大陸から隔離された島(島嶼)では、ヘビのような捕食動物は進化の過程で小型化する例が世界中で知られていますが、トカラハブの小型化も島嶼化によっておこる特徴的な進化の一例として注目されています。